

大会宣言

日本科学者会議第 38 回定期大会は、偏狭な国家主義や新自由主義の台頭するもつとで、戦争する国づくりのための改憲が狙われ、労働・教育・福祉・医療などあらゆる分野で社会的格差が拡大し、学問と科学・技術のあり方が歪められつつある情勢の下で開催された。本会は、科学を人類に役立て正しく発展させることを願う科学者の組織として、人類の進歩と平和に逆行するこのような動きに対抗するために、これから 1 年間に以下のような活動を行うことをこの大会で決定した。

1．人類の生存と平和的繁栄のために研究を行い社会に働きかける

日本国憲法の平和主義と人権尊重主義の普遍性を学問的見地から多面的に明らかにする取り組みと、改悪教育基本法の具体化を許さず教育条件の整備を求める取り組みを、全国の支部・分会と研究委員会、新たに設置する特別委員会など会の総力を挙げて推進する。

また、支部・地区の研究活動全般を活性化し、その定着強化を図る。研究委員会と支部・地区で、研究活動の協同・交流を進める。京都で開催する原水爆禁止 2007 年世界大会・科学者集会を成功させる。2008 年に愛知で開催する第 17 回総合学術研究集会（17 総学）の準備を始める。

2．高等教育と科学・技術の真の発展のために発言し行動する

日本において学問と科学・技術が人類の平和と福祉に貢献する条件が急速に失われつつある。この危機的状況を打開するために、本大会で確認された私たちの社会的責務と権利・地位、倫理に依拠した活動を強化する。

国公立大学・試験研究機関の法人化によって引き起された教育・研究上の問題点について総点検し、その実態をシンポジウム等によって明らかにし、国民への訴えや提言発表を行う。第 3 期科学技術基本計画に対して必要な提言と情報の発信を行う。女性や民間の研究者・技術者を含めた科学者の権利や地位を守る運動を発展させる。

3．会員が集まる場を作り議論し行動する

支部・分会活動の再建・強化は猶予を許さない課題である。分野を超えて集まり様々な課題に取り組むことで科学者として成長すること、科学者ならではの社会的責任を果たせること、多くの仲間を得ることなど、本会の魅力と存在意義を活かす観点から支部や分会の活動を再構築する。支部や分会のさまざまな取り組みが、院生・若手層の成長の場としても特に重要である。科学や科学者のあり方について深く考え実践したり、教育研究体制や社会問題について議論したりする機会をつくる。

4．活動活性化・会の存在意義の向上へ、組織体制・実務・活動スタイルを改善する

会員減と高齢化が進行している現状を直視し、皆でその克服に力を尽くす。支部を基幹としつつ、全国的課題に効果的に取り組めるよう、幹事会・常任幹事会は支部での創意ある活動を促す会運営を行う。また、会員拡大を進めて財政確立・担い手の確保を図っていく。特に若手や女性を会員に迎える努力を強める。常任幹事会と支部・分会との双方向の連絡を密にし、日常業務の合理化、創造的活動への支援、情報・経験の交流促進に努める。

これらのことを着実に実践することによって、本会の目的を真摯に追求することを改めて確認し、科学に携わる者としての責務を果たすことを宣言する。

2007 年 5 月 27 日

日本科学者会議第 38 回定期大会